

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2009年10月14日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.56】

## 警察はJR総連・東労組への革マル浸透の懸念強める！

すでに紹介した通り、2006年5月12日の内閣答弁書で、政府は「革マル派は、現在、将来の共産主義革命に備えるため、その組織拡大に重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して基幹産業の労働組合等各界各層への浸透を図っており、例えば、JR総連及びJR東労組内において、影響力を行使し得る立場に革マル派活動家が相当浸透していると見られるところである」との見解を明らかにした(No.1参照)。

そして警察庁は、広報誌「焦点」(平成11年通巻258号)において、「過激派集団革マル派～見えてきたその正体～」と題し、同派の実態を詳しく分析した特集を組んだ。その中で「同派は、革マル派の実態について論評や批判を行おうとする個人、団体に対しては組織を挙げた反論キャンペーンを張るなど言論の封じ込めを図る活動を展開しています」(p.6)と述べ、JR内の革マル派の動向を取り上げた「JRの妖怪」の著者小林峻一氏宅から取材メモやフロッピー等が盗まれた事件(1996年)、JR東労組と対立関係にあった労組幹部宅に対する電話盗聴事件(1995年12月)、国労本部企画部長(当時)宅に対する侵入事件(1996年8月)などを紹介している。JRに関連して革マル派が引き起こした違法行為は他にも多数ある。革マル派が執拗にJR問題に関心を示し、違法行為も起こしてきた実態をみれば、JR総連・東労組と革マル派との密接な関係を疑うのは当然だ。

### 革マルの違法行為を懸念し、警察はJR総連・東労組の動向を注視！

上記「答弁書」では「革マル派は、労働運動を通じた組織の維持及び拡大を図るため、JR総連又はJR東労組と対立する労働組合及び旅客鉄道株式会社の関係者に対する住居侵入等の違法行為を伴う調査活動を行うこと等が懸念される」とも答弁した。そして、2009年2月発行の「焦点」(277号)には、過激派に関する記載の中で以下の記述がある(p.32)。

革マル派が相当浸透しているとみられるJR総連・JR東労組は、本年を「反転、攻勢」の年と位置付け、組合員を大量に動員し、JR東労組の組合員らによる組合脱退及び退職強要事件(注:浦和電車区事件)やJR東海労役員による窃盗事件(注:蒲郡駅事件)の被告人への支援活動に取り組み、11月1日には約4,300人を動員して都内でデモを実施しました。JR東労組は、自治体の議会が採択する「取調べの可視化の実現を求める意見書」に「強要事件は冤罪である」などと主張する文言を盛り込むことを企図して、JR東労組と関係を有する各級議会議員に働き掛けを行いました。革マル派は、今後、死亡した黒田寛一前議長の「遺志」の継承を訴えながら、大衆運動及び労働運動に取り組み、組織の維持・拡大を図るものとみられます。また、対立する組織・個人の動向を把握するために違法な調査活動を行ったり、JR総連、JR東労組等に浸透する過程において違法行為を引き起こすことが懸念されます。

警察はJR総連や東労組に「革マル派が相当浸透しているとみられる」と冠して、彼らの浦和電車区事件への支援活動等を過激派の項で解説し、革マル派が、違法な調査活動や、JR総連・東労組等に浸透する過程において違法行為を引き起こすことへの懸念も示した。「等」とは北海道労組や貨物労組等のことだろう。警察は、わが国の治安の観点から、革マル派とJR総連・東労組等の動向をいっそう厳しく注視していることは明らかだ。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>